



わかば

流山市立北部中学校
平成30年5月17日
生徒数 493名

『あいさつ+1』

校長 金子邦晃

清々しい青空で朝を迎えたと思ったら、五月晴れが一転して真夏日のような気温になって熱中症を心配したり、安定しない天候への対応に気を揉んでしまうこともしばしばあります。そんな5月も半ばを過ぎました。

学校では、生徒総会が5月9日に実施され、委員会活動や生徒活動がよいよ本格的に始動しています。また部活では、春の大会が開催されている部がいくつかありました。うれしい笑顔も、悔しい涙も、次へのステップにつなげるために、日々の練習に熱が入っています。

毎朝玄関で、すれ違う先生方に元気な声で、はつらつと「おはようございます」の声をかけてくれる生徒がいます。一日の始まりに元気をもらいうれしくなります。

あいさつは、動物の世界でいうと、仲間であることや、上下関係を示したり、安心できる存在であることを示す行動になるのでしょうか。人の生活の中ではどうでしょうか…。あいさつは「心を開くもの」だと考えます。初対面の人にはもちろんですが、家族や普段顔なじみの人であっても、あいさつによって、お互いが自分の境をとり、心をなごませ、コミュニケーションを豊かにしていきます。そして人には声だけではなく、「表情」や「しぐさ」がありますので、あいさつはその時の心の動きや体調までも表現することができます。さらに自分の気持ちを言い表したり、説明したりするより、あいさつひとつでその人がどんな関わりを望んでいるかも伝わる場合があります。

また、あいさつは小さい頃から、学んでいくものだとも思います。自然に出るあいさつもよいのですが、時と場合を考えたあいさつを学ぶことも大切です。どんなあいさつが良いのでしょうか…。それは、相手が自分にどんなあいさつをしてくれるとうれしいのかを考えることでしょうか。そして、普段のあいさつに、もう一つ動作や表情を加えるととても印象のよいあいさつになるものです。「元気にあいさつ」「笑顔であいさつ」「相手の名前を言ってあいさつ」「目を合わせてあいさつ」「礼儀正しくあいさつ」などです。

『あいさつ+1』です。

そんな心が温まるようなあいさつを、学校だけではなく地域一杯に広げたいものです。「流北の生徒はあいさつが清々しいね。」というような声が保護者の方々にも、地域の方々からも聞こえてくるように、あいさつの輪を広げていきましょう。

☆引き続き登下校時の見守りをお願いします

5月7日に新潟市において女兒殺害事件が発生しました。犯人は逮捕されましたが、下校時の凄惨な事件で、どうして防げなかったのかという無念さが残ります。流山市でも4月20日に近隣地区で通り魔事件が発生し、犯人は未だ確保されていません。学校では、登下校の安全確保のために、生徒への注意喚起や不審者対応について指導をし、交通事故防止の観点からも、登下校時の荷物の軽減を図ることを考えているところです。保護者の皆様や地域の方々には、登下校時に非常な場面を見かけた際には、積極的に声かけをしていただくと幸いです。

引き続き地域の小中学生を見守っていただきますようお願いいたします。